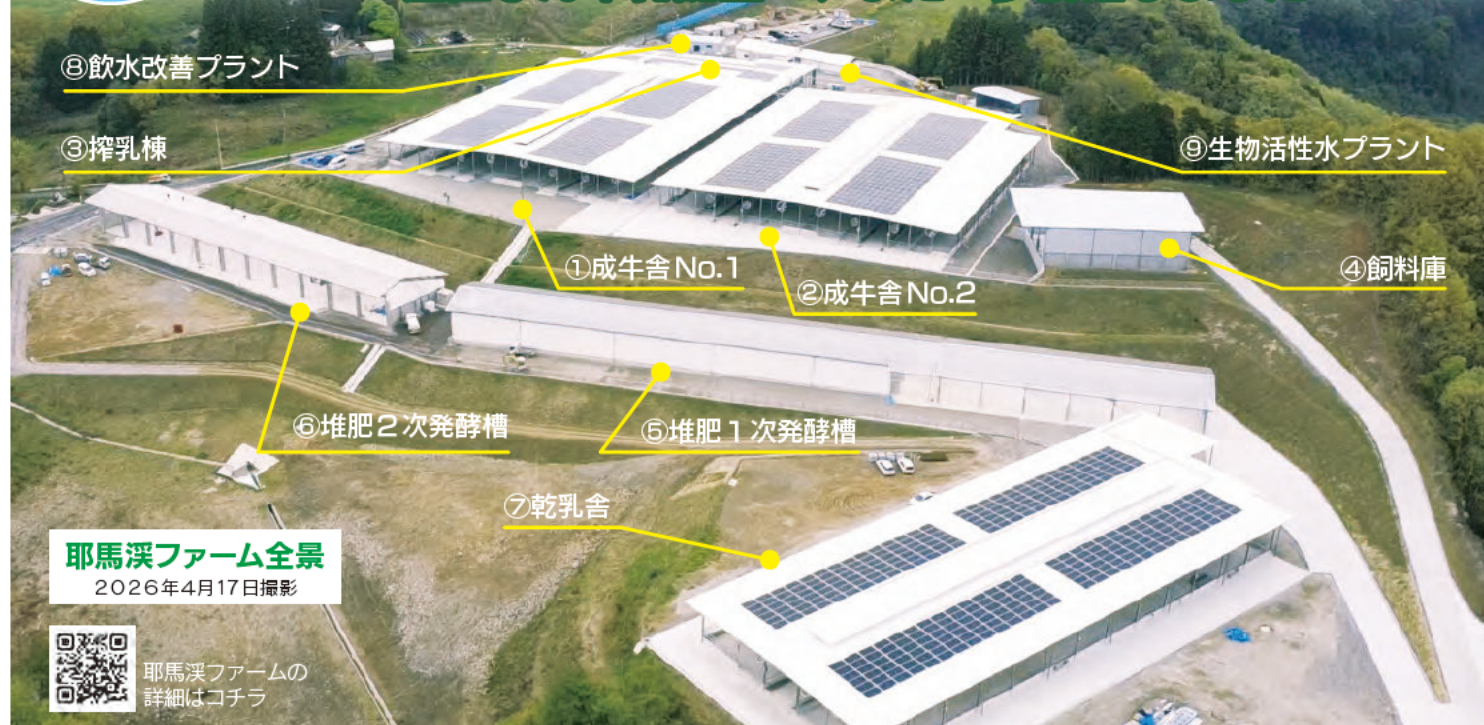




私たちの酪農場がついに完成

共生・循環型の酪農で実現する
産直びん牛乳誕生へ、また一歩前進しました



①②成牛舎 (No.1、No.2)：搾乳牛が過ごす施設 ③搾乳棟：搾乳専用の施設 ④飼料庫 ⑤堆肥1次発酵槽：牛の糞尿を一次発酵させる ⑥堆肥2次発酵槽：一次発酵させた堆肥を臭いのない完熟堆肥にする ⑦乾乳舎：出産前から搾乳を休止する乾乳期の乳牛の体力を回復させる施設 ⑧飲水改善プラント：「BMW技術を使って牛の飲み水を作る施設 ⑨生物活性水プラント：排水を浄化・活性化させるための処理施設

共生・循環型酪農プロジェクト

「TMRセンター」で作った飼料を、「耶馬溪ファーム」の乳牛に与え、その生乳を使って「グリーンコープミルク」でびん牛乳を製造する、循環型酪農の取り組み。地域との共生を理念に掲げ、地域の人たちと共に進めている。



詳細はコチラ

飼料作物栽培



産直青果・産直米の生産者などが、サイレージ用トウモロコシ、牧草などを生産。

飼料製造



TMRセンターで飼料を作ることで生産者の労力・コストを削減。

牛乳製造



グリーンコープミルクで生乳の殺菌から、びん詰め・出荷、回収したびんの洗浄まで行う。

酪農生産者からのメッセージ



いよいよ、7月1日に耶馬溪ファーム本牧場が開場し、牛の飼育が始まります。従業員一同、牛を健康に育て、良質な生乳をお届けできるように、精一杯頑張ります。おいしい牛乳を毎日飲んで応援してください！

株式会社 耶馬溪ファーム
代表取締役社長 脇坂 伸彦さん

共生・循環型酪農の要「耶馬溪ファーム」
検討開始から約5年の月日を経て完成した酪農場「耶馬溪ファーム」は、自然豊かな大分県中津市耶馬溪町にあります。耶馬溪ファームは、牛舎をはじめ飼料庫など、酪農に必要な施設をすべて備えています。耶馬溪ファームが開場し、すでに稼働している「TMRセンター」や「グ

リーンコープミルク」と連動することで、グリーンコープ内で産直びん牛乳の生産までをすべて賄う「共生・循環型酪農」が実現します。
簡単ではなかった酪農生産者との産直関係
グリーンコープは、2003年に産直びん牛乳を誕生させました。当初から、産直青果や産直畜産物などと同じように、産直びん牛乳の酪

グリーンコープは、自分たちの手で産直びん牛乳の生産基盤をつくる「共生・循環型酪農プロジェクト」を進めています。2024年8月に乳牛飼料の生産拠点「TMRセンター」を開設。2025年3月にはびん牛乳製造工場「グリーンコープミルク」が操業を開始しました。そして今年7月1日、酪農場「耶馬溪ファーム」が開場し、グリーンコープが飼料作りから飼育、牛乳製造まですべてを行う、真の「産直びん牛乳」の実現に大きく近づきました。開場直前の「耶馬溪ファーム」の様子と、これまでの経過、酪農生産者のメッセージを紹介します。

農生産者と直接取引をしたいと願ってきましたが、酪農業界の流通の仕組みにより実現できませんでした。

グリーンコープが理想とした下郷農協の酪農

2021年、グリーンコープはメーカーの事情により「産直びん牛乳が供給できなくなるかもしれない」という事態に直面しました。「自分たちの牛乳を失いたくない」という思いと同時に、「この機会に酪農生産者と共生・連帯の関係をつくりたい」と考えました。その際、一番に思い浮かんだのが「下郷農協」でした。

下郷農協は、2009年からグリーンコープと米や野菜、地鶏の産直取引を続けている生産者で、酪農事業も行っています。酪農生産者は、安心・安

新たな産直びん牛乳の誕生へ

グリーンコープと下郷農協、下郷農協の酪農生産者は話し合い、「グリーンコープの産直びん牛乳の生産に必要な1000頭規模の酪農場の建設」に合意。そして、2026年7月1日、待望の酪農場「耶馬溪ファーム」が完成、開場しました。今後、約100頭から乳牛の飼育を始め、毎月少しずつ増やしていきます。グリーンコープが目指してきた「産直びん牛乳」の誕生へ、着実に歩みを進めています。

※1 Bバクテリア、Mミネラル、Wラクトシスの頭文字に由来する、自然界のメカニズムを応用し、土壌や水を活性化させて自然循環型の農業などを行う技術。

※2 遺伝子操作の可能性や疑いがある作物の混入を防ぐため、適切な分別や生産、流通を管理した飼料。

7月1日の開場式の様子は、共生の時代 0513号で紹介予定です。

共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

2026 7 月

■発行：一般社団法人グリーンコープ共同理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング4階
TEL092 (481) 7923
FAX092 (481) 7876
<https://www.greencoop.or.jp/>

Contents

グリーンコープ共同体・社会福祉法人グリーンコープシンポジウム 立花高等学校 校長 齋藤 真人さん 講演会	2-3
水田の保全と活用 お米の価格問題を考える 6生協合同学習会	4-5
グリーンコープの輪・和・環 グリーンコープやまぐち生協 下村 春水さん	6
ふくしま発 5周年感謝祭 おおいだ発 EVキッチンカーの お披露目式開催	7
グリーンコープのイチオシ！ めソルティウォーター 甘夏テイスト	8

めグリーンコープ
グリーンコープは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

2026年5月の
組合員数 (5/20現在)

432490人

互恵のためのアジア民衆基金
2026年5月に
組合員の利用によってたまったのは
484,607円
2009年4月からの累計は116,581,062円

グリーンコープの就労支援（一例）

家にひきこもりがちで
対人関係に不安など

いきなり働く
自信がないなど

仕事の経験が
あまりなくて
コミュニケーション
に不安など

一人ひとりに合わせた
支援プランを作成

支援プラン

ゆっくりで大丈夫
まずは生活リズムから
整えていきましょう

支援員

ウォーキングや
ヨガで体力づくり

多様な多様なプログラム

料理教室

面接の練習

少し自信が
ついてきた

行きつ戻りつ、
自分らしい働き方や
社会とのつながりを
見つけていく

グリーンコープの職場見学

いろいろな仕事があるんだ！

これなら
自分にも
できるかも

グリーンコープでの無償・有償訓練

自分が
役に立ってる
実感！

助かってるよ！

対象者に寄り添った
支援を行っています

ユニバーサル就労

グリーンコープの就労支援については→
社福グリーンコープのホームページをご覧ください

カタログGREEN4号・5号で受け付けた
「**「チャルノービリ」原発事故による災害支援のための募金**」に
ご協力ありがとうございました。

組合員から
寄せられたカンパ金 **3,106,000円**

カンパ金は、[NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク]を通じて、
「チャルノービリ」(チェルノブイリ) 原発事故の被災地への専門家の派遣などに充て
られます。また、チャルノービリ原発事故の経験を備忘への支援につなげ、福
島の被災者のケアにも活用されます。



グリーンコープ生協（島根）
理事長
中本 千帆子

私が子どもの頃、買い物をする時に母は商品の裏をいつも見ていた。

友達が食べていたお菓子やインスタント食品、ジュースが欲しいというと、「お家にある食べものを食べてね」と母に言われた。「どうして？」というも思っていた。

そして自分の家族ができ、家族や子どもたちの食べものを母と同じように選ぶようになった。大切な家族の食べもの、母の想いが良くわかった。

私も母と同じように、家族、子ども、孫を守りたいという想いで「生命を育む食べもの」をこれからも選んでいく。そして子どもたち、孫へと繋がっていく。

グリーンコープに出会えたことで、食べものだけでなく全てにおいて安心できるようになり、裏を見なくて良い生活になった。

ユニバーサル就労の実践報告

ユニバーサル就労の話聞いた時、直感的に「うちの支部で受け入れてみよう」と手を挙げました。不安もありましたが、やってみないと分からない、そこで得る気持ちは今後生きていくと思ひ、就労体験の受け入れを決めました。職場の皆さんには受け入れにあたって「挨拶をしつかりすること」「質問や疑問には必ず答えること」「困ったことがあれば必ず私に報告すること」の三つを伝え、みんなで支えていくことを確認しました。就労体験をする上原さんには、「まずは職場に慣れるまでの2週間頑張ってみよう、きつければすぐに相談する」「就労日数を増やしたいなどの希望があれば、自分から私に伝えてほしい」と伝えてスタートしました。

困りごと相談室の支援員との連携も、支援を続けていく中での安心材料でした。困ったことがあれば相談できる関係があることで、受け入れた職場だけで抱え込む必要がないことを実感しました。初めは黙々と作業をしていた上



福岡東支部で就労体験を行う上原さん。

福岡東支部 支部長 眞名子 祐介さん

原さんでしたが、徐々に職場のみんなとコミュニケーションが取れるようになって、携わる業務も増えました。1日2時間の週2日間でスタートし、現在は週5日までに増えました。今後、定時職員として活躍してもらう予定です。今回ユニバーサル就労に取り組んで、就労支援だからとか何か特別なことをするのではなく、挨拶をしたり困った時に声を掛け合うなど、日常の関わりがとても大切だと改めて気付かされました。上原さんが再び社会で働きたいと踏み出せたのは、私たちの支援の結果です。彼自身が頑張った結果です。

※福岡県立相談支援事務所・福岡県から委託事業を社会福祉法人グリーンコープが受託。家計・お金や就労など生活全般の困りごとの相談、支援を行う。

福岡東支部で働く上原さんへのインタビュー

支援を受けるきっかけは、病気で前職を退職してから、4〜5年就職活動ができませんでした。ある時、病院の先生から自立支援の話を知り、就労の日数をきつかけ、グリーンコープの困りごと相談室と出会いました。前職に就く時もそうでしたが、就職活動がとて苦手でした。という仕事に就けるのか、そもそもの仕事をしたいのか、そういうことを考えるだけで頭がモヤモヤしてしまふことを、支援員さんに正直に伝えました。

就労準備支援の時と、就労体験を行っている今は、心の変化はありますか

就労準備支援の時より、意欲的に仕事をしたという気持ちで芽生えています。人前に出ることも平気になってきました。

職場のみなさんにも溶け込めている印象を受けます。何でも質問できて、毎回きちんと答えてもらえるので安心して就

自分の将来について考えていることがあれば教えてください。また、最初の3カ月は、毎日日報を書いて、支部長に見てもらったのですが、感じたことや困ったことについて相談に乗ってもらえたことも良かったです。

上原さんの後に続く人々へのメッセージ

ユニバーサル就労は、社会に関わるきっかけになると同時に、何か仕事したいというやる気につながっていくと思います。

グリーンコープの皆さんには、私の経験を、これから就労支援を受ける人の展望につながるように役立ててほしいです。私自身も協力していきたいと思っています。

ユニバーサル就労について感じたこと

社会福祉法人グリーンコープ 福祉委員会 委員長 大塚 優子さん

ユニバーサル就労を実践している二つの支部を視察しました。就労体験をされたというお二人は「働いてみたい」「支部長たちは「働いてもらってありがたい」という関係性が印象的でした。ユニバーサル就労を二つの視点で見ました。一つは、私自身の視点で。私は過去に、様々な要因でメンタルを病み離職し、再就職に苦労した経験があります。視察では、支援員が面談の中で支援を受ける人の考えを一緒に整理している様子を見ました。その時々、状態に合わせて見守り、伴走してくれる人がいることは、とても心強く感じました。

二つ目は、親の視点です。私の支援に求められるのは、介入型ではなく、伴走型支援だと思います。支援を必要とする人が、立ち上がりたと思った時に掴める手があること。どの手を掴むかをその人が選べるようにすることが大事です。だから、たくさん

選択肢が必要。そして、元気が出ない時期も、その人の人生にとってはきつと意味のあるものです。頑張れない人がいても、その自身が否定されるようなことは決してあってはならないと思っています。

パネルディスカッション

誰もが居心地の良い地域をめざして

そのままのあなたが輝ける場所 ～わたらしく、あなたらしく～ — 立花高校の実践から学ぶグリーンコープの未来について —



グリーンコープは、一人ひとりのその人らしさを大切にする働き方として「ユニバーサル就労」の取り組みを始めています。心身の不調や長期のプランクなどにより、すぐに就労することが困難な人が、就労に踏み出す体験の場として、グリーンコープの配送センターなどで受け入れをしています。

5月8日、不登校の生徒の自立支援に取り組む、福岡県の立花高等学校校長の齋藤眞人さんを招いてシンポジウムを開催しました。立花高校の「そのままのあなたが輝ける場所。わたらしく、あなたらしく」という考え方は、グリーンコープの就労支援や居場所づくりにもつながるテーマです。齋藤先生のお話から支援のあり方を学び、子どもや若者たちが安心して羽ばたける地域社会をつくっていく契機にしたいと考えました。

後半はパネルディスカッションを行い、グリーンコープで実践しているユニバーサル就労の様子を共有しました。

シンポジウムを通して、子どもや若者、生きづらさを抱える全ての人たちに、自分たちに何ができるかをそれぞれの立場から考える機会になりました。

「当たり前」を壊す

義務教育とは、大人に課せられた子どもに教育を受けさせる義務で、子どもにあるのは教育を受ける「権利」です。それが「子どもは学校に行かなくてはならない」にすり替わってしまっています。もし、子どもが学校に行きたがらないのであれば、学校以外で学べるようにすればいいのです。しかし、日本では学校に行くことが当たり前で、当たり前前から外れた子どもにも不登校というレッテルを貼り、子どもやその親に将来の不安を煽るよ

「当たり前」を壊す

義務教育とは、大人に課せられた子どもに教育を受けさせる義務で、子どもにあるのは教育を受ける「権利」です。それが「子どもは学校に行かなくてはならない」にすり替わってしまっています。もし、子どもが学校に行きたがらないのであれば、学校以外で学べるようにすればいいのです。しかし、日本では学校に行くことが当たり前で、当たり前前から外れた子どもにも不登校というレッテルを貼り、子どもやその親に将来の不安を煽るよ

安心して「当たり前」を壊す

立花高校の全校生徒の約8割は、不登校を経験した子どもたちです。私たちが目指しているのは、不登校を解決するのではなく、彼らが安心して不登校のままでもいられる学校です。私たちは彼らを何とかしよとはしていません。ここにいていいよ。ここで安心して過ごして」と言っているだけです。彼らは自分の力で立ち上がりま。立花高校は単位制で3年で卒業する必要はありませんが、86%の生徒さんが3年で卒業していきます。

卒業した中学校から、時間を守れず大変だったと報告があった生徒さんがいました。ある日、その子と話した時、時計の針を見せると時間を尋ねると、それまで饒舌に話していた彼が急に押し黙りました。しかし、デジタル時計を見て尋ねると、彼に親御さんに電話し、彼にデジタル時計を持たせてみてと伝えました。それだけのことで彼の人生は一変しました。時間が守れるようになったのです。後日、その子には学習障がいがあると分かりました。図形を認識することが苦手で、長針と短針の区別や、等間隔で並ぶ数字の規則性が理解できていなかったのです。時計針を読むのは当たり前という社会の中で、当たり前から外された自分には読めないと言えず、耐え忍んでいたのです。私は、彼の背中を擦って、「長い間きつかったね」と声を掛けたことを覚えています。彼はたくさん

元氣と迷惑は貸借りできる

校長室には、話を聞いて欲しいと生徒さんがよく来ます。小一時間話を聞くと「忙しいのに迷惑かけてごめん」と必ず言います。人に迷惑をかけてはいけないと大人から言われてきたのだと思います。誰にも迷惑をかけずに自分だけの力で生きていく大人なんて一人もいません。しかし、子どもに

校長室には、話を聞いて欲しいと生徒さんがよく来ます。小一時間話を聞くと「忙しいのに迷惑かけてごめん」と必ず言います。人に迷惑をかけてはいけないと大人から言われてきたのだと思います。誰にも迷惑をかけずに自分だけの力で生きていく大人なんて一人もいません。しかし、子どもに

一回の「頑張れ」よりも一回の「頑張ったね」

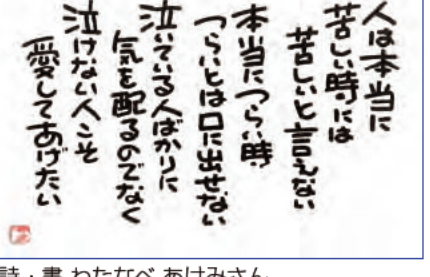
中学生の時不登校だった生徒さんの話です。彼は母親に心配をかけまいと、毎朝家を出て一日中隣の公園に隠れているような子どもでした。ある朝、元氣に出かけたはずの息子が玄関先で吐いてるのを見て、母親は驚き駆け寄りました。彼は叱られるかもしれないと思ひながらも、本当のことを告げると、母親は

合理的配慮が受けられるはずだった義務教育の9年間を、時間を守れない子というレッテルを貼られて終えてしまったので

このことをきっかけに、立花高校では、全教室に時計とデジタル時計の両方を置いています。二つの時計があることで、生徒さんたちはより快適に過ごせるようになったようです。一番困っている人のことを思っ行動するためには、実はみんなさんあるのです。

「元氣と迷惑は貸借りできる」

校長室には、話を聞いて欲しいと生徒さんがよく来ます。小一時間話を聞くと「忙しいのに迷惑かけてごめん」と必ず言います。人に迷惑をかけてはいけないと大人から言われてきたのだと思います。誰にも迷惑をかけずに自分だけの力で生きていく大人なんて一人もいません。しかし、子どもに



人は本当に苦しい時は苦しいと言えない
本当の時は涙を流さずにはいられない
泣きながら涙を配る人になんか
泣けない人こそ愛してあげたい

講演の最後に齋藤校長から参加者に詩が贈られました。

「ごめん、気づかなかった」と言い、彼を抱き寄せたそうです。彼は「もしあの時「頑張れ」と言わなかったら自分はどうなっていたか、それぐらい限界だった。でも母親は自分を理解し「ごめん」とまで言ってくれた。この日の朝の出来事を思い出すだけで、一生頑張れる」と私に話してくれました。

私たち大人は、自分の人生経験と重ねてアドバースをしようと思います。しかし、子どもたちが本当に求めているのは、共感的理解です。つまり分かってくれる人がいるかどうか、これに尽きるのではないのでしょうか。子どもたちも皆さんも、そして私も、どこかにしんどい思いを抱えながらみんな頑張っています。頑張っている前と自分が前と違う、お互いなど分たらないで、お互いなど頑張っているお互い「それで、よかよか」という価値観が、社会全体に広がればいいと思います。

水田の保全と活用、お米の価格問題を考える 6生協合同学習会 生産者と消費者が共につくる持続可能な農業へ

※6生協とは
バリスシステム生活協同組合連合会
生活協同組合連合会コープ自然派・オレンジコープ事業連合
東都生活協同組合
生活クラブ事業連合生活協同組合連合会
生活協同組合連合会アイチョイス
グリーンコープ生活協同組合連合会



No.215

原発でつくる電気はいらない

ひとたび事故が起きれば、取り返しのつかない被害が広がり、ふるさとを離れざるを得ない人々を生む原発。その電気に依存しない選択が求められています。電力はすでに、省エネの進展や再生可能エネルギーの拡大、需給調整の工夫によって多くの場面で賄えています。さらに皆で使う電力を減らすことで原発に頼らなくても成り立つ道が見えています。

省エネは持続可能な「新しい電源」と言われており、暮らしや産業の中で無理なく広がっていくことができます。太陽光や風力などの再生可能エネルギーも着実に普及し、地域で電気をつくり使う力は確実に育っています。

「電気が足りないから原発に頼る」のではなく、「使い方を直し、地域で賄う」時代へ。その流れを牽引するのは私たち組合員です。未来の世代に責任ある選択を。

グリーンコープ共同体組織委員会

原発のない未来をつくろう

ひろがれ/私たちの発電所

2026年4月の売電量

神在太陽光発電所 71,151.0kWh 定価出力1,057kW (309世帯相当)	吾宮物流センター太陽光発電所 4,408kWh 定価出力477kW (14世帯相当)
平池水上太陽光発電所 123,232kWh 定価出力1,280kW (368世帯相当)	広島物流センター太陽光発電所 4,277kWh 定価出力477kW (14世帯相当)
深年太陽光発電所 109,199kWh 定価出力1,550kW (453世帯相当)	グリーンコープまぐち生協 西部地域本部太陽光発電所 4,678kWh 定価出力544kW (16世帯相当)
※オンサイトPPA太陽光発電所 50,626kWh 定価出力795kW (232世帯相当)	グリーン未来ソーラー 20,304kWh 定価出力376kW (110世帯相当)

※グリーンコープ関連の事業所屋上に設置した太陽光発電設備で発電した電気を、送配電網を過ぎずに直接その施設で利用しています。

組合員の出資金で原発フリーの電気をつくります

「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いを、私たちの力で実現させましょう。

グリーンコープ・グリーン電力出資金
10,632人 1,088,321,000円 (2026年6月3日現在)

残留放射能検査結果 (82)

2026年5月に241品目の検査をしました(一部5月以前の測定分を含む)。すべて検出限界値未満でした。

最新の放射能検査結果は、ホームページ「放射能検査の取り組み」をご覧ください。
https://www.greencoop.or.jp/radiation/

地域に必要とされる会社を目指します

グリーンコープの産直生産者 株式会社フエルマ 代表取締役 木須 栄作さん

私たちは「食べておいしい、まわりは健やか、みんなが豊か」を理念に掲げ、米麦・大豆の生産から袋詰めまでを行っています。目指しているのは、私たちが住む佐賀県伊万里市の市民5万人分を賄える量の米を作って、頼れる農業法人になることです。

社員の半数ほどが20代で、AIを使った営農機材などを積極的に導入しています。持続可能な農業に取り組むことで、日本の農産物を守り、地域経済の基盤を支えたいと考えています。

組合員・消費者の視点

家族の健康と日本の農業を守る取り組み

グリーンコープ共同代表理事 日高容子さん

グリーンコープのお米は、誰がどのような栽培方法で育てているかが明らかです。生産者と組合員は交流によって顔の見える関係を築いており、生産者から見ても産直関係が実感できるものです。農業の使用を減らし、赤とんぼが飛び交う水田を目指して、「赤とんぼ米」と名付けました。

農業を減らして栽培するには、手間や労力がかかるため、お米の価格に生産奨励金を上乗せしています。それによって、生産者は農業を減らして環境にやさしいお米の生産を安定して継続することができ、組合員は安心・安全なお米を食べ続けることができます。子どもたちの健やかな成長を願う組合員の思いが、形になったのです。

また、定期予約の仕組みを作り、お米が不足した時も予約を優先して届けています。私たち組合員にできることは、まず利用することだと思います。安心・安全なお米を食べ、日本の農業を守る取り組みを共に継続していきましょう。

三、生産・消費の推進・育成・強化について

みどりの食料システム戦略では現在0.7%の有機栽培面積を2050年までに25%（100万ha）に拡大することをはじめ、化学農業の50%削減、化学肥料の30%削減を掲げています。

有機農業面積とその担い手を飛躍的に広げるため、国内外の有機農業の実践を検証・普及し、大規模経営体だけでなく家族農家を含む中小規模の経営体や新規就農者への支援を拡充すべきです。

生産現場からの報告

3人の生産者が、米作りで直面する課題や消費者に伝えたい現場の声を報告しました。

J A常陸組合長の秋山豊さんは、米作りの担い手の確保が最大の問題であり、輸入米は何としても阻止し、農業が継続できる米価を実現させたいと話しました。

J A庄内みどり遊佐町共同開発米部会会長の今野修さんは、水田を守るために飼料用米の面積を広げることや、生活クラブ生協の組合員と長年にわたり食育の取り組み等を継続し、関係を構築してきたことを紹介しました。

質疑応答・意見交換より

Q、農作物の価格が需給バランスで決まる理由は

私はお米の定期予約をしているので、令和の米騒動の時でも、いつも通りにお米を買うことができました。しかし、周りの農家からは「農業を続けるのも、あと5年が限界だ」という声を聞きます。工業製品は、原材料費や人件費などの経費に利潤を積み上げて価格が決まるのに対して、農作物は需給バランスで決まることに疑問を感じています。

A、国枝 玄さん

定期予約はとても良い仕組みです。事前に価格や品質、期間などの契約をすることで、生産者と農協、消費者の協働関係ができれば、価格もある程度の範囲に落ち着くと思います。

新たな水田政策策定に向けての提言(一部抜粋)

農林水産省が令和9年度(2027年度)から水田政策を抜本的に見直すため、6月23日に6生協が合同で農林水産省に提言を提出しました。

一、米の安定供給と自給率向上について

・安定的に供給を確保するためには、備蓄米の強化とともに、今ある水田をフル活用することが必要です。主食用米に限らず、加工用米、飼料用米を効率よく、バランスを考えて生産する体系を作ることが重要です。

・加工用米や飼料用米など主食用米以外の米生産も拡大するように、主食用米との所得差が生じないよう支援の水準を望みます。

二、所得補償と価格の安定化について

・安定供給を続けるためには、つくり続けられる価格、食べ続けられる価格を実現することになります。消費者が適正と思う5kg当たり米価は2千円台と、生産者が適正と思う3千円台では1千円程度乖離しており、このギャップを埋めるためには政府による一定の財政出動が必要と見えます。

三、生産・消費の推進・育成・強化について

・みどりの食料システム戦略では現在0.7%の有機栽培面積を2050年までに25%（100万ha）に拡大することをはじめ、化学農業の50%削減、化学肥料の30%削減を掲げています。

・有機農業面積とその担い手を飛躍的に広げるため、国内外の有機農業の実践を検証・普及し、大規模経営体だけでなく家族農家を含む中小規模の経営体や新規就農者への支援を拡充すべきです。

基調講演 米の適正価格をどう実現するか？ — 令和の米騒動と直接支払い —

作山 巧さん
明治大学 農学部教授
1989年に農林水産省に入省し、食料・農業・農村基本法の策定やPPP参加協議等に従事。2013年、明治大学に再任。

食料・農業・農村基本法(以下、基本法)は、農政の基本理念や政策の方向性を示す法律として、1999年7月に制定された。2024年に初めて本格的な改正が行われたが、その背景には、経済成長が止まって世界経済に占める割合が縮小したため、海外から食料を自由に買えなくなり、「食料安全保障」が重要になってきた日本の現状がある。

改正された基本法に基づく基本計画では、国内の食料供給について「食料自給率」を指標に目標を立てている。食料自給率は、1998年から2024年の間に40%から38%に下がった。その原因は、日本人が国内でとれる米や野菜、魚を食べなくなり、国内生産が減ったから。しかし、直近の数年は高齢化や人口のさらなる減少により、数値がわずかに上昇している。つまり、食料自給率は、日本人の消費行動に左右されてしまう点が問題と言える。

食料安全保障という観点からすれば、国内消費に影響されない「食料自給力」を指標にする方がより適切ではないか。

※1 良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、かつ国民一人ひとりがこれ入手できる状態。

※2 海外に頼らず、日本の農林水産業が持つ潜在生産能力をフル活用することの程度の食料を得られるかを力ロリーで表したもの。

価格高騰が消費者を直撃

ロシアによるウクライナ侵攻など不安定な世界情勢を受けて、ここ数年、食料品全体の価格高騰が続く中、総務省の家計調査によると、1人当たりの年間の米の購入量が、所得が低い層で増えている。値上げが続くパンや麺類に比べれば、米が一

政府によって行われてきた生産調整は、「需要の減少」生産調整の強化による需要の減少という負の連鎖を招いている。せつかく田んぼがあり、米が作れるのに、生産者の収入を確保するために生産を減らして値段を引き上げたことで、消費者の負担が増した。

米の適正価格を実現するためには、生産者、消費者、国(納税者の三者が、それぞれだけ負担する)を考える必要がある(図1)。

①生産調整を継続した場合、②生産調整を廃止した場合、③生産調整を廃止し、国が直接支払いによって生産者の収入を

補填した場合の三つのシナリオに沿って、米の価格を試算すると、②のようにならば、米の小売価格は5kg1000円前後になる。ただ、これでは生産者にとって安すぎるので、生産者が安定して生産を継続できる価格と中間点を見出していくべきだ。③のように直接支払いを行えば、税金を使うので私たちの納税者としての負担は増すが、生産調整の廃止によって米の小売価格を抑えられれば、消費者としての利益のほうが納税者としての負担よりも大きくなる。

生産調整から直接支払いへの転換は、社会全体から見ても利益が大きいため、安定した供給のために、誰かが一方的に損をするのではなく、互いの負担を理解し、痛みを分かち合うことが必要ではないだろうか。

令和7年・8年産米は、価格が高騰した5年・6年産米より増産される見通しで、価格は下がってきている。

農林水産省は、人口減少などによる需要低下の流れを前提に、翌年度の米の需要量と生産量の見通しを作成して公表してきたが、結果的に見通しを誤った。

高騰した6年産米の流通状況について緊急調査を行った結果、従来の把握方法では不十分であることが分かった。そのため、食糧法を改正し、流通状況の把握を強化する。これまでの出荷・販売を行う事業者だけが届出をしていたが、対象を加工作業者や中食・外食事業者まで拡大し、在庫量や取引量の定期的な報告を義務づけるなど、新たな措置を講ずる予定だ。

現在では生産調整を行っていないが、食糧法改正において、米の生産減少を前提とした生産調整方針に関する規定を廃止する。

米の生産性向上について

米農家の数は、2020年の85万人から2030年に25万人まで急減する見通しだ。将来的に米を増産していくためには、生産性を上げることが必要。具体的には、稲作の多収・高温耐性品種の開発が進んでおり、すでに気象条件に合わせて全国各地で栽培されている。輸出用、中食・外食用の需要が増加する中、たくさん収穫できる品種を導入し、農家の所得を増やすことが重要だ。ブレンド米の利用も拡大しており、風味や系統などを最適なバランスでブレンドする技術により、おいしい米を低価格で供給することが可能になる。

グリーンコープをはじめとする全国の6つの生協は、生産と消費をつなぐ役割を担い、長年きたり持続可能な食と農の仕組みづくりを進めてきた。

米の生産・消費の減少や米価の高騰が続く中、日本の食料や農業を取り巻く環境は、かつてないほど厳しくなっています。この状況を受けて、6生協は、持続可能な米生産の実現に向けて連携し、取り組むことにしました。

4月11日、その第一歩として、水田の保全や活用米の価格問題について考えるための合同学習会を開催し、グリーンコープから12人が参加しました。

有識者の講演や、農林水産省による米政策をめぐる状況の説明、生産現場からの報告などを通して、米を取り巻く状況について学び、持続可能な農業について考えるとともに、今後も6生協が連携し、継続的に消費者の声を国に届けていくことを確認しました。

合同学習会の様子と、後日6生協が国に提出した提言の内容を伝えます。

改正された基本法と基本計画の評価

食料・農業・農村基本法(以下、基本法)は、農政の基本理念や政策の方向性を示す法律として、1999年7月に制定された。2024年に初めて本格的な改正が行われたが、その背景には、経済成長が止まって世界経済に占める割合が縮小したため、海外から食料を自由に買えなくなり、「食料安全保障」が重要になってきた日本の現状がある。

改正された基本法に基づく基本計画では、国内の食料供給について「食料自給率」を指標に目標を立てている。食料自給率は、1998年から2024年の間に40%から38%に下がった。その原因は、日本人が国内でとれる米や野菜、魚を食べなくなり、国内生産が減ったから。しかし、直近の数年は高齢化や人口のさらなる減少により、数値がわずかに上昇している。つまり、食料自給率は、日本人の消費行動に左右されてしまう点が問題と言える。

食料安全保障という観点からすれば、国内消費に影響されない「食料自給力」を指標にする方がより適切ではないか。

※1 良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、かつ国民一人ひとりがこれ入手できる状態。

※2 海外に頼らず、日本の農林水産業が持つ潜在生産能力をフル活用することの程度の食料を得られるかを力ロリーで表したもの。

令和の米騒動はなぜ起きたのか

2024年(令和6年)から2025年(令和7年)にかけて各地で米不足が発生し、米の小売価格は2024年半ば以降に大きく上昇。1年で2倍以上も値上がりした。令和の米騒動は、2023年と2024年に米の生産量と需要量のギャップ(需給ギャップ)が増大したことが原因で起こった。その要因の一つが、政府による過度な生産調整である。米の需要量は年々減り続け、この60年間で半減している。生産量が過剰になり、政府は需要量に応じて生産量を削減してきた。そこにもう一つの要因である。予期せぬ需要量の増加に加わって米が足りなくなった。政府は需要量が

米の価格形成はトリレンマで、全員が満足する解決策はない

①生産調整の継続 → 消費者が損失
②生産調整の廃止 → 生産者が損失
③直接支払い → 納税者が損失

※4 選択肢が3つあり、3つの目標すべてを達成することが難しい状況のこと。 (当日資料より)

米の価格・流通の現状と食糧法の改正について

令和7年・8年産米は、価格が高騰した5年・6年産米より増産される見通しで、価格は下がってきている。

農林水産省は、人口減少などによる需要低下の流れを前提に、翌年度の米の需要量と生産量の見通しを作成して公表してきたが、結果的に見通しを誤った。

高騰した6年産米の流通状況について緊急調査を行った結果、従来の把握方法では不十分であることが分かった。そのため、食糧法を改正し、流通状況の把握を強化する。これまでの出荷・販売を行う事業者だけが届出をしていたが、対象を加工作業者や中食・外食事業者まで拡大し、在庫量や取引量の定期的な報告を義務づけるなど、新たな措置を講ずる予定だ。

現在では生産調整を行っていないが、食糧法改正において、米の生産減少を前提とした生産調整方針に関する規定を廃止する。

米政策をめぐる状況について

農林水産省 農産局農産政策部企画課 課長 国枝 玄さん

いと考え。かつて戸別所得補償という形で、農地の広さに応じた金額を直接生産者に支払ったことがあるが、生産者にとっては所得増につながらなかったこと、生産価格やコストにかかわらず補償したこと、生産性を上げる意欲が削がれた面もあり、制度は廃止され、現在に至っています。

※5 主要食糧の需及び価格の安定に関する法律。改正案が国会で審議中。

※6 自宅外で調理されたものを購入し、自宅や職場などに持ち帰って食べる食糧。

米政策をめぐる状況について

農林水産省 農産局農産政策部企画課 課長 国枝 玄さん

いと考え。かつて戸別所得補償という形で、農地の広さに応じた金額を直接生産者に支払ったことがあるが、生産者にとっては所得増につながらなかったこと、生産価格やコストにかかわらず補償したこと、生産性を上げる意欲が削がれた面もあり、制度は廃止され、現在に至っています。

※5 主要食糧の需及び価格の安定に関する法律。改正案が国会で審議中。

※6 自宅外で調理されたものを購入し、自宅や職場などに持ち帰って食べる食糧。



3月の定例会。テーマは「化学物質過敏症(香害)」。香害の当事者が作ったスライド「香害を人権のメガネで見てみよう」を見ながら、活発な意見交換が行われた。「誰もが安心してその場にいられるように、できるだけ話しやすい雰囲気だと考えています」と下村さん。

ヒューマンライツすずめの会

身近な社会問題について学び、語り、考える場の提供や、誰もが生きづらさを感じることを活動の目的として、2024年11月に設立。会の名称「ヒューマンライツ」は、「人権」の英訳。「すずめ」のように、みんなで集まって、わいわいとおしゃべりしながら人権について学びたいと命名。
今年、「公害と人権」をテーマとした「水俣病」のシンポジウムを開催する予定。

農作業の合間にラジオを聞くのが日課になっていたという下村さん。詩人のアーサー・ビナードさんの反戦や平和をテーマにした番組や、国会中継も欠かさず聞いていたそう。畑にいたことが多く下村さんにとって、ラジオは社会とつながる



はるみ
下村 春水さん
「ヒューマンライツすずめの会」代表
グリーンコープやまぐち生協組合員

「農業」をとおして 社会の課題を知る

山口県周南市で生まれ育った下村さんは、祖母が農業を営んでいたこともあり、子どもの頃から酪農や農業に興味を持ち、北海道の大学で酪農を学びました。その後、山口県の実家近くの農場で働き始めます。「小鳥のさえずりを聞きながら無心になれる畑仕事が大好きで、自分に合っていたと思います」と振り返ります。

ありのままにいられる 生きやすい世の中に

大事なツールでした。

※1 詩人・翻訳家。アメリカ生まれ。広島県在住。著書に「知らなかった、ばくらの戦争」(小学館)他多数。

福島原発事故を機に 出会った仲間と共に

下村さんは、2011年に起きた福島第一原発の事故後、地元山口県の上関原発の建設計画反対に関する集まりに参加するようになり、その中で「原発のない社会にしたい」という思いを強くし、伊方原発の運転差し止めの訴訟の原告に加わるなど、反原発運動に取り組み始めます。運動を共にする仲間とは、原発の問題だけでなく、食育や農業のことなど、世の中の課題や矛盾に広く関心を向けて誰もが生きやすい社会にしたいと話し合っていました。下村さんたちが自分た



下村さんの働く観光農園「かいたファーム」。農業や化学肥料などを、山口県の慣行栽培の半分に抑えた「特別栽培」で、ぶどうと梨を作っている。

ない状況があることに気が付き、日々の息苦しさの原因はここにあったのかと、大きな衝撃を受けました」と言葉をかみしめながら話します。様々な社会課題が「人権」につながることに気づいて改めて認識するきっかけとなりました。

※2 日本の社会課題を「人権」の視点で考える、イギリス在住の国際人権法の専門家。ヒューマンライツすずめの会で講演会を延べ6回開催。

様々な課題の根っこにある「人権」について議論を深める

また、生活の中でも、「人権」についてたびたび考えることがあったと下村さんは言います。夫婦で農園を営んでいるにもかかわらず、取引業者が夫にばかり話をするのが、「すごく苦しかった」と振り返ります。「ご主人と奥さん」という昔からの価値観が、女性に対する差別につながっているのだと感じました。

「人権」を通して自らを振り返り社会とつながっていく

農業に携わる中で、農薬の危険性を身をもって感じてきた下村さん。「始

めた観光農園は、規模が大きく、当初は農業に頼らざるを得ませんでした。農作業で、手はぼろぼろでした。農業は本当に恐ろしいです」と言います。人体に有害な農薬を多用する大規模農業が環境にも負荷をかけている現状では、安全な食べものを食べる権利が守られないと訴えます。「国は、家族経営など小さな規模の農業を大切に、農薬や化学肥料を減らし、安全な食べものが食べられるようにしてほしい。安全な食べものを食べることは、子どもたちにとって健康に育つ権利、生きる権利であるからです」と下村さんは言葉に力を込めました。

大好きな農業に携わりながら「人権」についてもさらに学びを深め続ける下村さんは、誰もが尊厳を持って暮らせる社会をめざして、これからも前に進んでいきます。



2017年、伊方原発運転差し止めを命じる仮処分決定の報告をする下村さん(垂れ幕を持つ右から2番目)。

投稿コーナー

私の好きなグリーンコープ商品

めチキンハムスライス

今年の4月に、福岡に引っ越してきてすぐにグリーンコープに申し込みました。まだ2〜3回しか買い物をしていないため、全ての商品の事はわかりません。でも、最初にグリーンコープ姫浜店で買っためチキンハムスライスが、さっぱりして食べやすく、どの料理とも合わせやすく、とても気に入りました!他の生協の店では見たことがありません。ぜひ、また買いたいと思っています。チキンハム、食べた〜!!

グリーンコープ生協ふくおか 西村 葉子

投稿募集中! 掲載分にはグリーン券500円分プレゼント!

お題 ①BabyGreen(離乳食)を利用した感想、エピソードなど(商品名を一つ明記してください)
②私の好きなグリーンコープ商品 ③うちの家族
応募方法 220字以内(①で写真有の場合は150文字)①の写真はjpeg、1.5MB以内。プリントも可。
住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記してください。
※個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。原稿や写真は返却できません。「共生の時代」はグリーンコープのホームページでも公開します。ご了承ください。
郵送 〒812-8561 福岡市博多区博多駅前1丁目5-1
博多大博通ビルディング4F グリーンコープ「共生の時代」編集部
FAX 092-481-7876 メール rikoho@greencoop.or.jp



会場：まちなか広場（福島市）



太陽油脂(株)によるせっけん作りのワークショップ。子どもも大人も安全な材料でオリジナルのせっけんを作りました。



EV車の電力を、ブースの電源として利用しました。



木のおもちゃで遊べるブース。木琴の音色と木のなめらかな手触りが、赤ちゃんの好奇心を育みます。

「来て、見て、食べて、」グリーンコープ生協ふくしま 5周年感謝祭

これからも仲間と共に グリーンコープを発信していきます



グリーンコープ自慢のびん牛乳は、来場者に好評でした。



開発に携わった組合員が、グリーンコープの離乳食のこだわりを伝えました。

グリーンコープ生協ふくしま（以下、ふくしま）は、東日本大震災の支援活動を通してグリーンコープと出会った母親たちが、「子どもたちに安心・安全な食べものを食べさせたい」と願い、2021年に設立しました。

4月25日に開催した、設立5周年を記念した感謝祭の様子を伝えます。

感謝祭当日は、事前に配布したチラシを手にした組合員や地域の方が、開始前から行列をつくりました。

JR福島駅からほど近い会場には、グリーンコープの取引メーカー29社のブースや、子どもが遊べるコーナーやワークショップを行う学習会ブースなどが並び、来場者は思い思いに感謝祭を楽しみました。

小さなお子さんを連れて来場した組合員は、「子どもが生まれたことをきっかけに、食べものの安全を気にするようになり、グリーンコープに加入しました」と話し、ふくしま設立時の願いが地域に広がっている様子が伺えました。

今回の感謝祭には、東日本大震災の支援でつながった団体や、ふくしま設立を応援した当時の共同理事たちも駆けつけ、一緒に盛り上げました。

グリーンコープ生協ふくしま理事長の押山靖子さんは、「5年間で組合員の仲間がとも増えました。組合員のみならず、地域の方々に直接感謝を伝えたいと思い、プロジェクトを立ち上げ、まつりを開催しました。5周年を一つの節目として、仲間と共に6年目の新たなステージに向かいたいと思います」と意気込みを語りました。

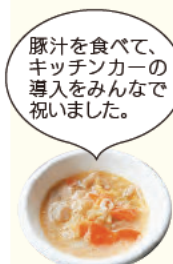
感謝祭は終日にぎわい、新たな組合員の仲間も増え、グリーンコープ生協ふくしまの明るい未来につながるといえます。

災害時に温かい食事と元気をお届けします

EVキッチンカー 走るキッチン元気くんのお披露目式を開催



組合員・ワークス・取引メーカーの代表がテープカットを行いました。



豚汁を食べて、キッチンカーの導入をみんなで祝いました。



グリーンコープ生協おいた（以下、おいた）は、異常気象や地震などで発生する災害時の支援に備えるため、EVキッチンカー「走るキッチン元気くん」を導入しました。

2026年2月25日にお披露目式が行われ、組合員、ワークス、職員、メーカーが参加しました。

被災者に寄り添った支援ができるように、グリーンコープは、近年頻発している災害に対し、発生時にいち早く被災地に向き、被災された方へ必要な物資を届けるなどの支援を行っています。

グリーンコープ生協おいた（以下、おいた）も、地震や豪雨災害などの支援活動を行ってきた。避難所での生活を余儀なくされている方々に、「支援物資を届けるだけでなく、温かい食事も提供したい」という組合員の声から、EVキッチンカーを導入することにしました。EVキッチンカーの購入費用、設備や

3/14 佐賀関の「関あじ関さばまつり」にEVキッチンカーが初出動

大分県漁業協同組合が主催する「関あじ関さばまつり」に、「走るキッチン元気くん」が参加しました。佐賀関では、昨年11月に大規模火災が発生しました。その災害からの復興を目指す地域の方たちに喜んでもらえればと、キッチンカーでぜんざいを提供しました。キッチンカーの前には長い行列ができ、笑顔でぜんざいを食べる人たちの姿が見られ、好評でした。



グリーンコープの食材で作ったぜんざいは、用意した分がすべてなくなり、人気です。

お披露目式は、おいたの本部事務所で行い、温かい豚汁を振る舞いました。

おいたの理事長（当時）の薬師寺ひろみさんは、「みんなの夢を乗せて走るキッチンカーなので、大事に使っていきます。災害支援や地域福祉のため、組合員、ワークス、職員が力を合わせて取り組んで活用していきます」。

お披露目式は、おいたの本部事務所で行い、温かい豚汁を振る舞いました。

キッチンカーで地域をもっと盛り上げたい。お披露目式は、おいたの本部事務所で行い、温かい豚汁を振る舞いました。

EVキッチンカーは災害時だけでなく、おいたのお店や各センターのイベントへ出店するなど、平常時も活用します。地域の活性化にも役立ちたいと考えています。

今後、災害が発生した際は、県内外を問わず駆け付け、温かい食べものや飲料水、電源を提供します。「走るキッチン元気くん」は、被災された方たちが早く元気を取り戻せるよう、おいたの夢を乗せて走り出します。

キッチンカーのデザインや名前は、組合員が考えました！



災害時には、非常用電源として電気を供給します。

この車両は大分県との協定に基づき被災者支援を行うために整備された車両です。

大分県の「避難生活環境改善推進事業」の補助金を活用した、災害支援車両です。

太陽光パネルを搭載しているため、どこでも発電や電源の提供ができます。



ゴリゴリ飲める! 熱中症対策飲料 ソルティウォーター 甘夏テイスト

本格的な夏の到来! 外はもちろん、室内でも熱中症が心配されますね。

この夏、からだに必要不可欠な水分を、**ソルティウォーター 甘夏テイスト**でしっかり補給しませんか。子どもから大人までゴクゴク飲める、すっきりさわやかな味わい。グリーンコープならではの「やさしさ」を詰め込んだドリンクです。からだにしみわたるおいしさを、実感してください。

ソルティウォーター 甘夏テイストは熱中症対策飲料です!

※「ナトリウム40~80mg/100ml」(食塩相当量0.1~0.2%)の基準を満たす飲料だけが、「熱中症対策」と謳うことができます。

※(一社)全国清涼飲料連合会「熱中症対策」表示ガイドラインによる。この値は、厚生労働省の「職場における熱中症予防対策マニュアル」に記載の値に基づく。食塩相当量として100ml当たり0.1~0.2g。



散歩・ランニングに

おでかけ・レジャーに

スポーツ時に

入浴前後に

ソルティウォーター 甘夏テイスト 1缶 490ml

ソルティウォーター 甘夏テイスト 490ml×24缶

24缶入りは
7月と8月、毎週
注文できます。



この夏に気をつけたい!
熱中症にならないために

水分はからだに必要不可欠

私たちのからだの大半は水分でつくられています。人間は普通に生活しているだけでも、1日に約2.5ℓもの水分が体内から失われるので、食事のほかに毎日1.2ℓは意識して水分をとる必要があります。体内の水分を5%失うだけで、脱水症や熱中症などの症状が現れます。のどの渇きは、すでに「脱水」が始まっている証拠です。渇きを感じる前に水分補給しましょう。

しっかり補給 水分&塩分

夏は汗をかいて、気がつかないうちに体内の水分と塩分が失われます。熱中症が疑われる時は、水分だけを補っても、血液中の塩分濃度が低下して、症状を悪化させてしまうこともあります。熱中症対策のポイントは、水分と塩分を一緒に補給することです。

参考:「健康のため水を飲もう」推進委員会「健康のため水を飲もう講座」
(一財)日本気象協会が推進するプロジェクト「熱中症ゼロへ」

熱中症対策には**ソルティウォーター 甘夏テイスト**をおススメします!



ソルティウォーター 甘夏テイスト やさしさポイント

安心・安全な原材料

・国産果汁使用

地球温暖化や生産者減少などの影響で、国産の果汁は年々確保が難しくなっています。**ソルティウォーター 甘夏テイスト**は国産果汁にこだわりました。

甘夏果汁
0.7%
ポンカン果汁
0.3%

・グリーンコープの原料使用

海水塩(なぎさ)を使っています。

甘みと塩味のバランス

- ・砂糖と果糖ぶどう糖液糖をバランスよく配合した、コクがありながらもすっきりとした甘さ。
- ・100mlあたり食塩相当量0.11g(0.1%)の、ちょうどいい塩味。
- ・甘夏のさわやかな酸味とポンカンのまろやかな甘みをブレンド。

すっきりさわやかな
甘さもひかえめ



・遺伝子組み換えの心配がない 果糖ぶどう糖液糖

ソルティウォーター 甘夏テイストは、遺伝子組み換えの混入を防ぐ分別生産流通管理を行った果糖ぶどう糖液糖を使用しています。

日本国内で生産される異性化糖(果糖ぶどう糖液糖を含む)のうち、遺伝子組み換え由来の原料と分別して生産されたものはとても貴重です。

・合成甘味料不使用

環境にもやさしいアルミ缶

- ・アルミ缶は、アルミ缶へと何度もリサイクルすることができ、製造時のエネルギーを節約して、ゴミを減らすこともできます。
※アルミ缶はお住まいの市町村のルールに従ってリサイクルに出してください。
- ・アルミ缶は、遮光性が高く、酸素透過がほぼないため、風味劣化を抑えて品質保持に優れています。
- ・キャップ付きだから、必要な量を飲むことができ、持ち運びにも便利。(開封後は、早めにお飲みください。)

2026年4月のみんなのアクション

地球の未来を守るのは
あなたの**1アクション**から!



2027年までにCO₂排出0へ
国産のものを食べる、容器などを返す。こんな簡単な1アクションが、地球を守る大きなアクションになります。

地球温暖化ストップのためにグリーンコープが拠出します

1pocoにつき5円、リユースびんの利用1本につき5円、モールドバック利用1バックにつき5円、リサイクルされるトレーなど1kgにつき5円

poco 国産のものを食べる

2026年4月の実績

6,303,426.2

poco

1pocoは100gのCO₂削減に相当

CO₂削減量 630トン

31,517,131円

2026年4月の実績

びんの利用数		モールドバック利用数
牛乳びん	リユースびん	モールドバック
393,271本	221,980本	584,658バック
CO ₂ 削減量 41トン	5,999,545円	

+

リサイクル回収量		
トレー	仕分け袋	カタログ
7,201kg	6,143kg	293,480kg
CO ₂ 削減量 78トン	1,534,120円	

+

CO₂削減の取り組み

EV車導入 マングローブ植林 ドライアイズ削減



削減できたCO₂
約**750トン**

CO₂を750トン吸収するためには、杉の木約53,565本が必要です

リユース・リサイクルデータ
2026年4月分(回収率)

牛乳びん 回収率 99.3%	リユースびん 回収率 58.9%
トレー 回収率 44.9%	モールドバック 回収率 101.7%
仕分け袋 回収率 23.8%	カタログ 回収率 67.7%

私のpocoを確認しよう!

グリーンコープアプリをダウンロードして、ホーム画面の元氣くんをタップ!

アプリのダウンロードはストアから**グリーンコープ**で検索

App Store からダウンロード Google Play で手に入れよう
動作可能バージョン: 12~17.2 推奨バージョン: 14 動作可能バージョン: 7~15

【お詫びと訂正】2025年12月号に掲載した「2025年9月のみんなのアクション」で、リユースびんの利用本数と、びんとモールドバック利用に対する拠出金額、合計拠出金額に誤りがありました。正しくは、リユースびんの利用本数は202,311本、びんとモールドバックの利用に対する拠出金額は6,229,740円、合計拠出金額は41,833,150円でした。お詫びして訂正します。